

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「ファミリーマート、関西に薬ヒグチとの融合店」
- 2) 「豚レバーの生食は危険 厚労省“牛の代用”に警鐘」
- 3) 「札幌に24時間資源物回収場“じゅんかんコンビニ”」
- 4) 「アウトドアブーム、次にくるのはゴミ拾い!？」

---

1) 「ファミリーマート、関西に薬ヒグチとの融合店」

ファミリーマートとヒグチ産業は10月10日、京都市にファミリーマートと薬ヒグチの融合店舗としては関西1号店となる、「ファミリーマート+薬ヒグチ西陣北店」をオープンする。従来のコンビニエンスストアの利便性・商品（中食・サービス）機能に、ドラッグストアの専門性（カウンセリング力）・商品（健康・介護）機能を融合させた新しい形の店舗フォーマット。

両社では、この店舗を通してお客の日常生活を支援する、社会・生活インフラ企業としての小売業態「ライフソリューションストア」の実現を目指す。

同店では、ヒグチ産業が雇用する登録販売者5名を交代で常駐させることで、およそ500種類の一般用医薬品（2類、3類）を24時間販売する。

コンビニエンスストアの得意とする商品（中食・サービス）に加え、医薬品やドラッグストアで売上構成の高いオーラルケア、ヘアケア、家庭用洗剤、家庭紙・健康食品などの品揃えを拡大する。

怪我や病気は予定どおり起こるものではないので、24時間営業で薬が買えるのはやはり便利で助かる。1類の販売は無理でも大衆薬での応急処置は可能であり、また働き口が増え雇用の創出にもつながると思うので今後このスタイルは定番になっていくのだろう。

---

2) 「豚レバーの生食は危険 厚労省“牛の代用”に警鐘」

豚の生レバーを一部の飲食店が提供している問題で、厚生労働省は4日、加熱を飲食店に指導するよう都道府県などに通知した。消費者が生で食べないように注意喚起も求めた。豚を生で食べるとE型肝炎やカンピロバクター、サルモネラ菌による食中毒の危険があり、厚労省は「加熱が常識」としている。

牛の生レバー提供が7月に禁止になり、都市部を中心に豚で代用する店もある。厚労省によると、飲食店が提供した豚のレバ刺しで、過去10年で少なくとも5件の食中毒が発生し、32人が発症している。

どんな食材にも食中毒は起こり得るが、リスクの大きいと言われるものはなるべく避けるのが懸命だとは思う。飲食店でレバーがとてつもなく売上げにつながるということはまず少ないと思うので、あれだけ大きな事件が起こったあとに提供するのだからよっぽどの自信があ

るのだろう。消費者も知識を得たうえで頼んでいるのだろうからあとは自己判断に任せるしかないと思うが、店にメニューとして掲げられていることで「食べても大丈夫なんだ」と思うということを店側にはもっと肝に念じて欲しい。

---

### 3) 「札幌に24時間資源物回収場“じゅんかんコンビニ”」

札幌・太平に9月15日、24時間資源物回収場「じゅんかんコンビニ24」がオープンした。運営は、リサイクル業、製品・廃棄物処理などを手掛けるマテック。

同社が2010年より運営するリサイクル・廃品回収サービス店「じゅんかんコンビニ」を基盤とし、新たに開業した同店。古新聞・古雑誌、アルミ缶・スチール缶、小型家電、パソコン、携帯電話、金属製品などを回収し、利用者には商品と交換できるポイントを付与する。同店では新たに受付専用端末を設け、常駐していた店員を無人化し、24時間利用できるようにした。

利用する際は端末にカードをかざして受付。初めての利用の場合は受付機でカードを発行する。端末の指示に従い「新聞・雑誌」「ダンボール」「金属・小型家電」「アルミ缶・ペットボトル」などに区別されたボックスにリサイクル対象資源物を入れる。資源物の量や種類によって相応のポイント「リサイクル貢献度」が付与され、500ポイントためてアンケートに答えると商品券やクオカードなどが進呈される。今月31日までポイント2倍のキャンペーンも実施。

同社の担当は「好きな時間帯に来られること、処理の面倒な金属類や費用が発生する資源物を手軽に無料で片付けできることが重宝がられている。まずは1度利用してリサイクルにご協力いただければ」と話す。今月13日には手稲区富岡にも開業予定。

コンビニという形にしてしまう事で、誰でも気軽にリサイクルを行う事が出来そうだ。回収費用が掛かるものを無料で引き取ってもらい、なおかつポイントがもらえるのならとリサイクルに踏み出せなかった人にもハードルは低いと思う。時間規制もなく、気が向いた時に行くことが出来るため様々なライフスタイルの人に受け入れられるのではないかと。

---

### 4) 「アウトドアブーム、次にくるのはゴミ拾い!？」

もはやブームというより、レジャーのひとつとして若者にも定着したアウトドア。登山やキャンプなどがポピュラーだが、そうした活動に「ゴミ拾い」が仲間入りする日も遠くないのかも。

昔はゴミ拾いといえば、町内会の地味な活動というようなイメージが強かったが、最近は夏フェス会場などでもゴミの分別化が進み、楽しみながらゴミ拾いをする若者が増えてきた。そんなゴミ拾いをアウトドアスポーツととらえ、健康的で楽しくファッショナブルな活動として応援しているのが、遊び心あふれるゴミ袋を提案する「GARBAGE BAG ART WORK」(ガベッジ・バッグ・アート・ワーク/以下GBA)と、コロビアスポーツウェアジャパンのCSR活動「ECOLUMBia」。

先ごろ、両社がコラボレーションしたオリジナルゴミ袋のデザインを発表。9月24日から無料配布をスタートした。デザインは両社から案をだし、コロンビアの社内投票のよって決定。“環境を守ろう！”というメッセージが伝わりやすいアース柄とアニマル柄の2シリーズで、色やサイズがことなる全6種を用意。これまでのGBAのゴミ袋にくらべると、ファッション性が前面に出ている感じ。

今回、新たなゴミ袋の配布にあわせてGBAのサイト内に特設ページ「Let's ヒロイスト！！」もオープン。ゴミ袋の申し込み専用フォームのほか、参加したゴミ拾い団体の写真もアップ。さらに、そのなかから毎月オシャレなゴミ拾いスタイルをピックアップし、もっともオシャレでクールなゴミ拾い人には「ベストヒロイスト賞」を贈呈。ちなみに、ヒロイスト選定基準は服装・ポーズ・パフォーマンスなどを総合的に判断。

ゴミ袋の無料配布は、地域のゴミ拾い団体、NPO団体、学校、PTA、環境団体などが対象だが、友人同士など少人数の活動でもOKだそう。「ゴミ拾いは楽しいもの、ゴミ拾いはクールな野外活動、そういう認識が日本中に広まればいいですね。ぜひ、多くの方にこの活動に参加してほしいです」 ゴミ拾い自体も楽しめて、地域もキレイになるならということなし。ベストヒロイスト、あなたも狙ってみませんか。

敬遠されがちなことに遊び心を持たせてイメージを変えるということはこれまでいろいろ行われてきたが、ゴミ拾いもその良い例だと思う。無表情でやっていた行動にも笑顔が出るのではないか。単に作業するだけでなく目標を持って行動することで価値を生むというのは様々なことに応用できると思う。